

**大村市の基幹産業といわれる
農林水産業にもっと光を！**

山口議員

(1)三浦幼稚園について
現在、休園している三浦幼稚園について、この先開園できる見通しが立たない場合、幼稚園及び園舎の有効活用策として、三浦地区住民及び子どもたちに自由に利用できるような措置がとれないか。

(2)農林水産行政について
大村市の基幹産業である農林水産業について、農業基本条例が提案されたことや基本計画が策定されることを受け、理念だけでなく、今後、農業予算の増額に向けた意気込みは持っているか。

教育次長

(1)三浦幼稚園については平成20年度以降、入園希望者が少ないというところで休園の状況にある。今後については、幼児全体を対象とした整備計画の中で検討をしていくようにしているが、当分の間は休園を継続したいと考えている。他の用途への有効な活用については、休園という状況の中であれば現有施設の一時的理由ということで利用可能ではないかと思っている。

市長

(2)大村市の基幹産業である農業の大切さは十分に認識している。単に条例を制定した、基本計画を策定したということではなく、市民全体で農

農林水産部長

(2)基本計画は、これからの大村市の農業施策を総合的に進めていく指針である。この計画策定においては生産者である農業者、農業委員会、市、県が一緒にな

って計画をつくっていくこと、そして協力し合っていくことが課題である。予算等については重点を置き、十分に配慮している。業に関わり、担っていくこと、そして協力し合っていくことが課題である。人事評価制度と総合的な人材育成策について



(その他の質問事項)

出張所エレベーター設置の今後の見通しについて
人事評価制度と総合的な人材育成策について

**市民窓口サービスのより良い取り組みで、
市民が快適で安心して利用できる環境づくりを！**

三田村議員

(1)市民窓口サービスについて
様々な要件で市役所を訪れる市民への対応は重要である。的確に対応し、快適なサービスを提供するために、フロアマネージャーの設置や、収納課への相談など事情に配慮した個室の設置はできないか。また、これらを含む窓口サービスの向上を図るため、平成22年度中

に市民窓口サービス課やプロジェクトチームなどを設置し、検討すること

はできないか。

(2) ①無料クーポン券による子宮がん及び乳がんの受診率の状況はどうか。また、その啓発活動はどのように努力されたか。

②市民病院は婦人がん検診の受入に努力されているが、その受診状況はどうか。

市長

(1)市役所は市民サービスの拠点であり、その市庁舎の入口には総合受付がある。総合受付では来庁された市民の皆様へ、目的に応じた担当課を紹介するなど、その要望に

副市長

(1)市民窓口サービス課の設置などの組織については平成22年度には間に合わないもので、既存の組織でその機能を果たすようなことを考えていきたい。

福祉保健部長

(2)①無料クーポンによる受診率は、今年度末の見込みで乳がんが27・7%、子宮がんが23・1%である。検診の個人負担が無料の制度であることから、当初は



(その他の質問事項)

すこやか福祉基金の枯渇時の事業継続について

福祉保健部長

(2)市民病院においては市民向けの講座を開設するなど独自に婦人がん検診の啓発活動を行っている。受診状況は1月末で乳がん検診が前年比52%増、子宮がん検診が前年比34%増となっている。